

久喜市がん検診推進標語

「自分のため 家族のためにも がん検診」

# 受けよう！ がん検診

がんは昭和56年以降、日本人の死亡原因の第1位です。日本でのがんによる死亡者数は、年々増え続けていて、年間30万人を超えています。日本人の2人に1人はがんになるといわれ、死亡する人の3人に1人はがんで命を失っています。がんから身を守るためには、「早期発見・早期治療」が大切です。職場検診や人間ドック、市の検診などを利用して、定期的ながん検診を受けましょう。

問合せ 各保健センター（中央 ☎21・5354 / 菖蒲 ☎85・7021 / 栗橋 ☎52・5577 / 鷲宮 ☎58・8521）

## がんの知識と認識を深めよう

がん検診の目的は、早期に発見し、適切な治療を行うことで、がんで死亡する人を減らすことです。そのためには、がんを知り、正しい知識を持ち、検診を受けることが必要です。



●市の肺がん検診（集団検診）  
対象 40歳以上（平成27年3月31日時点）の市民  
方法 問診、胸部エックス線撮影  
※ヘビースモーカーなどの危険因子が高い方は、喀たん検査も受けてください。

## 大腸がん

は、日本人の食生活が欧米化したことから、増加傾向にあります。

大腸がんは長さ約2mの大腸（結腸・直腸・肛門管）に発生するがんです。大腸がんがしやすいのは、肛門に近い直腸と、直腸につながるS状結腸で、全体の約7割を占めています。

●市の大腸がん検診（集団検診・個別検診）  
対象 40歳以上（平成27年3月31日時点）の市民  
方法 問診、便潜血反応検査2日法

## 前立腺がん

は、加齢により多くなるがんの代表です。70歳を超えると約2割、80歳を超えると約3割に前立腺がんが発生しています。

●市の前立腺がん検診（集団検診・個別検診）  
対象 50歳以上（平成27年3月31日時点）の市民で男性  
方法 問診、血液検査「血中PSA（前立腺特異抗原）測定」

## 子宮がん

は、子宮の入り口にできる子宮頸がん<sup>けい</sup>と、子宮の奥にできる子宮体がんの2種類があります。

### ◆子宮頸がん

子宮頸がんは、20歳代から30歳代の女性に最も多いがんです。

子宮頸がんは、ほとんどの場合、初期段階では自覚症状がありません。不正出血や下腹部の痛みがあるときには、既に進行している場合があります。

### ◆子宮体がん

子宮体がんは、50歳代から60歳代の女性に多く発生しています。子宮体がんの発生数は年々増え続けています。

●市の子宮がん検診（集団検診・個別検診）  
対象 20歳以上（平成27年3月31日時点）の市民で偶数年齢の女性  
方法  
・集団検診（頸がん）：問診、内診、子宮頸部細胞診  
・個別検診（頸がんおよび体がん）：問診、内診、子宮頸部細胞診  
※医師が必要と認めた方のみ、頸がん検診に併せて子宮体部細胞診を行います。

※子宮がん検診は昨年度受診していない奇数年齢の方も対象になります。

## 乳がん

は、女性に一番多いがんで、40歳代から50歳代をピークに

## 肺がん

は、がん発生率第1位で、男女ともに増え続けています。肺がんの予防には、たばこを吸わないことが最も有効です。自覚症状が出てから検査を行って発見された肺がんは、進行していることが多く、治療することが難しくなります。

## 胃がん

は、早期に発見し、適切な治療を受ければほぼ完治できます。しかし、胃がんの発見が遅れ、他の臓器に転移があると、生存率は極端に低下します。

●市の胃がん検診（集団検診）  
対象 40歳以上（平成27年3月31日時点）の市民  
方法 問診、エックス線撮影（バリウム）